

平成 30 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 静 岡 福 祉 事 業 協 会

平成 30 年度 社会福祉法人静岡福祉事業協会事業報告

当法人は伝統ある社会福祉法人として、社会福祉法に定める第 1 種社会福祉事業である、母子生活支援施設『千代田寮』及び第 2 種社会福祉事業である、保育所『千代田保育園』の施設運営を主要事業として、当法人の経営理念及び運営基本方針に基づき、適切な福祉施設の運営に努めた。

また、千代田寮においては施設の安全対策（防犯強化）として、防犯カメラの設置だけではなく、警備会社との連携による『遠隔画像監視システムの設置』を告知するための表示を 4 か所に掲示した。環境整備としては、自転車置場サイドパネル設置工事・学習室エアコンの分解洗浄を実施するほか、児童学習用の学習机・椅子を新調した。

千代田保育園においては、2 階ホールに常備しているグランドピアノの買替によるリニューアル及び経年劣化した壁面絵画看板の取替工事を施工した。

この他、改正社会福祉法による、『地域における公益的な取組を実施する責務』について、現行の制度では実施困難な地域のニーズを把握するための情報収集を念頭に置き、法人や施設においてできることを常に模索しながら施設運営を推進した。

I 施設運営事業報告

1 母子生活支援施設『千代田寮』の運営

(1) 千代田寮は、児童福祉法の理念に基づき、配偶者のいない女子または、これに準じる事情にある女子及びその者が監護すべき児童を入所させて保護するとともに、児童の健全育成及び学力向上に努め、母子の自立のための生活の支援に努めた。

(2) 支援世帯数の状況

平成 30 年度は、千代田寮入所定員 30 世帯のうち、年度当初 29 世帯の在所世帯に対し、9 世帯が自立等により退所し、新たに 8 世帯が入所したことにより、3 月末現在では 28 世帯の在所状況となった。

（詳細報告は千代田寮事業報告書記載のとおり）

2 保育所『千代田保育園』の運営

(1) 千代田保育園は、家庭での子育て不安が増している中で、保育を必要とする子ども達を受け入れ、保育理念等に基づき保育の充実に努めるとともに、保育園児の健やかな成長のための質の高い保育サービスの提供に努めた。

(2) 保育園児の状況

平成 30 年度は、千代田保育園利用定員 180 人のうち、新入園児 35 人を迎え、

年度当初 171 人に対し、8 人が転居等により退園し、新たに 16 人が入園したことにより、3 月末在園児数は 179 人となった。

(詳細報告は千代田保育園事業報告書記載のとおり)

Ⅱ 役員会議等事業報告

1 理事会の開催

(1) 平成 30 年度第 1 回理事会

期日 平成 30 年 6 月 5 日 (火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 平成 29 年度事業報告 (案)
 - ② 平成 29 年度本部及び施設拠点区分収支決算 (案)
 - ③ 平成 30 年度本部及び施設拠点区分第 1 次補正予算 (案)
 - ④ 平成 30 年度定時評議員会の開催

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況報告 (施設職員調書・業務委託一覧)

(2) 平成 30 年度第 2 回理事会

期日 平成 30 年 11 月 30 日 (金)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 定款細則の一部改正 (案)
 - ② 千代田保育園運営規程の一部改正 (案)

報告事項

- ① 平成 30 年度上半期 事業実施状況報告
- ② 平成 30 年度上半期 収支予算執行状況報告
- ③ 職務執行状況報告

(3) 平成 30 年度第 3 回理事会

期日 平成 31 年 3 月 11 日 (月)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 平成 30 年度本部、施設拠点区分第 2 次補正予算 (案)
 - ② 平成 31 年度事業計画 (案)
 - ③ 平成 31 年度本部、施設拠点区分収支予算 (案)
 - ④ 給与規程の一部改正 (案)
 - ⑤ 平成 30 年度第 2 回評議員会の開催

2 評議員会の開催

(1) 平成 30 年度定時評議員会

期日 平成 30 年 6 月 26 日 (火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題 ① 平成 29 年度本部及び施設拠点区分収支決算 (案)
② 平成 30 年度本部及び施設拠点区分第 1 次補正予算 (案)

報告事項

- ① 社会福祉充実計画
② 平成 29 年度 事業報告

(2) 平成 30 年度第 2 回評議員会

期日 平成 31 年 3 月 26 日 (火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題 ① 平成 30 年度本部、施設拠点区分第 2 次補正予算 (案)
② 平成 31 年度事業計画 (案)
③ 平成 31 年度本部、施設拠点区分収支予算 (案)

報告事項

- ① 定款細則の一部改正
② 千代田保育園運営規程の一部改正
③ 給与規程の一部改正について

3 監査の実施

(1) 当法人の決算監事監査

- ・対 象 平成 29 年度事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 平成 30 年 5 月 25 日 (金)
- ・監査意見 平成 29 年 5 月 25 日 (金)
 - ① 事業報告等の監査結果
 - 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
 - 二 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ② 計算関係書類及び財産目録の監査結果
 - 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 当法人の定期監事監査 (中間監査)

- ・対 象 平成 30 年度上半期、事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 平成 30 年 11 月 13 日 (火)

- ・監査結果 平成 30 年 11 月 13 日（火）
平成 30 年度上半期分（30.04.01～30.09.30）の社会福祉法人静岡福祉事業協会の事業、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正であると認めます。

(3) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課による平成 30 年度の「法人」並びに「千代田寮」の指導監査

- ・対 象 社会福祉法人静岡福祉事業協会
- ・実施期日 平成 30 年 9 月 7 日（金）
- ・監査結果 平成 30 年 11 月 5 日（月）
文書指摘 なし

- ・対 象 千代田寮
- ・実施期日 平成 30 年 9 月 7 日（金）
- ・監査結果 平成 30 年 11 月 5 日（月）
文書指摘 なし

(4) 静岡市子ども未来局幼保支援課による平成 30 年度の「千代田保育園」の指導監査

- ・対 象 千代田保育園
- ・実施期日 平成 30 年 9 月 6 日（木）
- ・監査結果 平成 30 年 11 月 2 日（金）
文書指摘事項
 - ・ 1・2 歳保育室について、現員に対し面積が不足していたため、面積基準を遵守すること。
【静岡市児童福祉施設の整備及び運営に関する基準を定める条例 45 条】

4 法人内部の運営会議

下記の運営会議を実施し、法人組織の強化、健全な施設経営の推進に努めた。
（経営環境と経営状況の把握・分析に基づき経営課題を明確にし、具体的な取組の推進。）

(1) 千代田寮運営会議：毎月第 2 水曜日（月例）

- ① 実施回数 12 回
- ② 会議事項
 - ・ 月間事業実施状況
 - ・ 母子生活支援に係る懸案事項等の調整
 - ・ 入所者支援充実、常に選ばれる施設になるための具体的方策
 - ・ その他

(2) 千代田保育園運営会議：毎月第 3 水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・月間事業実施状況
- ・保育に係る懸案事項等の調整
- ・質の高い保育の提供、保育園児を確保するための具体的方策
- ・その他

(3) 法人本部運営会議：毎月第1水曜日（月例）

① 実施回数 12回

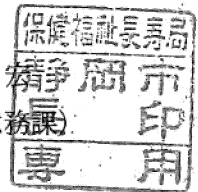
② 会議事項

- ・月間事業費執行状況（月次試算表数値状況）及び月次経営成績
- ・施設利用者数確保のための具体的方策
- ・法人経営、組織等に係る懸案事項等の調整
- ・その他

平成 30 年 11 月 5 日

社会福祉法人 静岡福祉事業協会
理事長 萩原 信幸 様

静岡市長 田辺 信
(保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課)



平成 30 年度社会福祉法人及び施設指導監査の実施結果について (通知)

平成 30 年 9 月 7 日に実施した法人及び施設指導監査結果について、下記のとおり通知します。

なお、口頭指摘等については、別紙「指導監査結果一覧」に記載したとおりです。

記

- 1 社会福祉法人 静岡福祉事業協会
文書指摘
なし
- 2 母子生活支援施設 千代田寮
文書指摘
なし

担当 保健福祉長寿局健康福祉部
福祉総務課監査指導係

電話 054-221-1367

FAX 054-221-1091



30 静子幼保第 2020 号

平成 30 年 11 月 2 日

社会福祉法人静岡福祉事業協会 理事長 様

静岡市長 田辺
(子ども未来局幼保支援課)



平成 30 年度児童福祉施設等指導監査の実施結果について (通知)

平成 30 年 9 月 6 日に実施した、千代田保育園の指導監査結果について、下記のとおり通知します。なお、現場で指示した事項については、速やかに改善するようお願いいたします。

なお、指摘事項は、通知日より 1 ヶ月以内に別紙様式にて是正・改善状況が確認できる資料を添付して報告をお願いいたします。また、現場で指示した事項についても、速やかに改善するようお願いいたします。

記

文書指摘事項

- ・ 1・2 歳保育室について、現員に対し面積が不足していたため、面積基準を遵守すること。

【静岡市児童福祉施設の整備及び運営に関する基準を定める条例第 45 条】

担当 子ども未来局 幼保支援課
総務・事業者指導係

TEL 054-354-2622

FAX 054-352-7733



(別紙様式)

静 福 事 第 40 号
平成 30 年 11 月 14 日

静 岡 市 長 田 辺 信 宏 様

社会福祉法人名 静岡福祉事業協会
理 事 長 名 萩 原 信 幸



児童福祉施設等指導監査における指摘事項の是正・改善計画の提出について
平成 30 年 11 月 2 日付で通知のありました指摘事項についての是正・改善計画を
下記のとおり提出します。

記

指摘事項	是正・改善の計画	是正・改善の時期
・1・2 歳児保育室について、 現員に対し面積が不足していた ため、面積基準を遵守するこ と。	・年度途中の現時点で、部屋の 交換・園児の部屋に移動等は、 子ども、保護者の方の対応など 現実的に難しい面があるため、 来年度に向けて、0 歳児クラス に 1 歳児を入れることで、 1・2 歳児保育室の人数を保育 室の面積に合わせて受け入れ、 面積基準を遵守する。	・平成 31 年度の受 け入れ時から

平成30年度 千代田寮事業報告書

近年入寮してくる母子は、夫などからの暴力を理由とするものがほとんどで、様々な課題をかかえるケースが多いため、利用者と職員との信頼関係を基に母親の日常生活支援に重点を置き、個別面接及び、自立支援計画を作成するとともに関係機関、弁護士、精神科医とも連携し自立支援を行った。

児童に対しては、安心して生活できる環境を提供し心の安定を図り、良好な人間関係の持ち方や社会生活に必要な知識（日常生活のマナー等）習得を促し社会自立の一助とした。

1. 在籍世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日	29	30	30	28	28	30	30	30	30	29	28	28
入所	1	1	1	1	3	0	1	1	0	0	1	2
退所	0	1	3	0	1	0	0	0	1	1	2	0

※ 入所 DV 6 家庭環境の不適切 3 退所 自立 8 夫の追跡の為措置変更 1

2. 自立支援活動状況

(1) 日常生活支援

母子が安定した生活を送るためには、生活の基である衣・食・住がある程度満たされた状態が必要であり、それが十分満たされていないか、バランスに欠けていたりすると健康への不安が懸念され、生活そのものが成り立たなくなる。

安心・安全な環境の中、安定した生活を成り立たせ、母子の心と体の健康を維持向上のために日常生活に関する様々な支援を行った。

(2) 心理的支援

DV や虐待等による心的外傷等のため心理療法を必要とする母子に対し、遊戯療法、グループ療法、カウンセリング等の心理療法を実施し、心理的な困難を改善し、安心感、安全感の再形成及び人間関係等の修正等を図ることにより、母子の自立を支援した。

母 8 人、児童 11 人に延べ 185 回のカウンセリング、児童のグループワーク等を実施し結果は下記のとおり。

	軽快	やや軽快	不変	中断
母	1	6	1	0
児童	4	3	3	1

(3) 児童学習支援

児童への学習指導の支援は、児童の学力向上のみならず、入所前の虐待や DV などによっ

て学習環境が整っていなかった児童に対して、帰宅後に学習を行う習慣を作るという目的を含め支援に努めた。

平成 30 年度 学習指導実施回数児童参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数(日)	20	21	21	22	21	18	22	21	19	19	19	20	243
参加人数(人)	237	255	250	268	283	202	218	225	230	181	167	211	2727

(4) 就労支援について

目的：自らの就労収入により自立に向けての自信を育てる

平成 29 年度 実績：10 名。

- ・静岡市母子寡婦福祉連合会の就労支援員との連携で、求人情報や就労時の面接・履歴書作成等の支援を受けながら求職活動実施。求人情報等は定期的に届き掲示している。
- ・生活保護家庭の場合は、葵区福祉事務所生活支援課生活保護係の就労支援員との連携を実施。
- ・母親の状態により、長時間の就労が厳しい方には個別に一緒に仕事探しから始める。
⇒例えば、保育園の掃除のしごとなど求人に掲載されない仕事を探す。
- ・就労に対する迷いや不安に関して適切な傾聴や、必要に応じた助言などの支援を行う。
- ・母親が安心して就労できるように施設内保育や学童保育などの保育支援を行う。

平成 30 年度 保育実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	20	19	21	22	21	41	51	27	26	26	24	20	337
人数	29	22	23	50	29	48	54	27	30	29	24	22	387

3. 個別対応について

目的：他者に相談する事や他者に受入れてもらえる経験を積み、自分の課題に向き合い克服するプロセスを側で支え、日々の生活を豊かに過ごせるようになる事を目的とする。

(1) 母親たちに向けて

入所に立ち合い、入所後落ち着いた頃に今までの経過の聞き取り面接を実施し、利用者の背景を知る。それを基に利用者への理解を深め今後の方向を一緒に話し合っていていく。

生活上の困難を抱えた時には、随時対応する。こちらから面談を実施したり、利用者からの希望を受けて面接の時間を設け個別に対応。（記録に残し職員の共通の認識とする）

主な主訴内容 ・心身の悩み

- ・ 人間関係・子育ての不安
- ・ 将来への不安
- ・ 自分の生育歴への怒りやその整理
- ・ 離婚調停や裁判中はその事への不安や恐怖
- ・ 生活全般の悩み
- ・ 児童相談所ケースの母親の場合は、そのフォローを実施
(ペアレントトレーニングの振り返り面接や、児相面接への同行)

(2) 子どもたちに向けて

日々の生活場면을観察し、面接を投げかけて実施。また子供からの希望で面接実施。

- 主な主訴内容
- ・ 学校生活の対人関係、学習や進路の事
 - ・ 千代田寮生活の事
 - ・ 母の事、父の事（父の存在をどのように理解して自分の気持ちの中でどう折り合いを付けたらよいか）
 - ・ 友達との事
 - ・ 児童相談所ケースの場合は、児相との連携で面接を請け負う
 - ・ 心理担当職員と協働してグループワークの実施

子どもも母親も主訴内容は、それぞれが違う課題を抱えている為多様であるが、丁寧な面接を心掛ける。親子双方からの相談が有ったり、関係性を調整するための役割も担っている。

(3) その他

- ・ DV被害に特化した情報提供や支援の実施
離婚における情報提供や弁護士との連絡、裁判等への同行支援
住民票が無い状態での諸々の手続きを同行支援
- ・ 退寮時のネットワーク作り
- ・ ケースネット会議への参加により関係機関との連携

支援実績

	上半期(H30年4月～9月)	下半期(H30年10月～30年3月)	平成30年度年間
個別面接実施回数	715	619	1334
ケースネット会議出席 (退寮ケース対応)	6 (0)	8 (0)	14 (0)
関係機関への情報提供 (内訳)	654	722	1376
(市役所・区役所)	311	300	611
(警察署)	19	6	25
(弁護士)	30	56	86

(学 校)		144	154	298
児童相談所		65	142	207
(病 院)		66	47	113
一時保護所へ面接訪問		0	0	0
同 行 支 援	役所・買物・家事援助	254	274	528
	家庭裁判所・弁護士	9	9	18
	主治医訪問	33	27	60

(4) 障害等のある利用者の支援

知的、精神的な障害のある利用者の為に各種の制度、手当等の利用を支援し、退寮にむけての条件作りを進めた。

一方で、日常生活面では、関係機関と連携し就労支援の実施や通院支援を公用車でなく自立に備え公共交通機関を利用した同行支援を実施した。

4. 行事

行事などのプログラムは、母親や子どもが施設の中での生活を楽しみ、趣味などを通して精神的な安定や自立への意欲を高めて行くために実施されている。また、行事には母親や子どもが、職員や他の利用者との親睦を深めたり、日頃のストレスを解消する効果も期待できる。さらに忙しい母親が出来にくいところや楽しみの体験が希薄になりやすいところを補完する事にもつながる。

年間行事実績

- 4月 3日 1年生を迎える会 児童 26名参加
- 4月 18日 母親健康診断 受診者 28名
- 4月 21日 春の遠足（お弁当作り、城北公園へ遠足） 児童 19名参加
- 4月 23日～5月 13日 母の日プレゼント（トートバック）作り 児童 51名参加
- 5月 12日 児童文化奨励絵画展（県養協主催）出品 4名入賞
- 7月 7日 七夕まつり（飾り・風鈴作り） 児童 27名参加
- 7月 26日～8月 27日 夏休みラジオ体操
- 8月 4日 梅ヶ島金山温泉バス遠足（バーベキュー、プール） 児童 26名参加
- 8月 26日 児童昼食会（食肉組合青年部「内人会」バーベキュー大会） 児童 20名参加
- 9月 7日 母子遠足（ぐりんぱ） 母子 69名参加
- 11月 5日 入所施設防災の日防災訓練千代田消防署員 3名 母子 68名参加
- 11月 10日 母親嘱託医検診 受診者 27名
- 12月 2日 上足洗地域防災訓練 母子 34名参加
- 12月 25日 クリスマス会 児童 30名参加
- 1月 4日 千代田寮新年会 母子 40名参加
- 2月 1日 豆まき 母子 38名参加
- 3月 1日 ひなまつり 母子 34名参加

4. 研修・会議

職員は、利用者に対して支援が適切に行われるように、施設内外の研修・会議を通じて、必要な知識及び技術の習得、維持及び向上に努めた。

・施設内研修

平成 30 年度千代田寮救命救急研修会	7 月
---------------------	-----

・施設外研修（抜粋）

平成 30 年度女性保護・DV 担当者研修会	6 月
平成 30 年度算定基礎届事務研修会	6 月
平成 30 年度面接スキルトレーニング（年 6 回）	6 月
関東ブロック母子生活支援研究協議会	7 月
平成 30 年度養育費に関する研修会	7 月
社会福祉法人事務職員経理応用講座	7 月
普通救命講習Ⅲ、日赤救急法基礎講習	7 月
平成 30 年度感染症講座	8 月
第 14 回権利擁護・虐待防止セミナー	9 月
平成 30 年度甲種防火管理新規研修	10 月
静岡県 DV 防止中部地域ネットワーク会議	10 月
全国母子生活支援施設研究大会	10 月
平成 30 年度女性保護担当職員・相談員研修	10 月
平成 30 年度社会福祉事業退職手当説明会	10 月
平成 30 年度一時保護に関する意見交換会	11 月
児童福祉施設における暴力防止研修会	11 月
第 9 回虐待防止静岡の集い講演会・パレード	11 月
平成 30 年度社会福祉法人財務管理講座	12 月
平成 30 年度社会的養護を担う施設長研修会	12 月
平成 30 年度スーパービジョン研修会	1 月
社会福祉法人消費増税対応講座	1 月
関東ブロック施設長・職員研修会	2 月
静岡県母子生活支援施設協議会研修会	2 月
社会福祉法人決算実務研修	2 月

※ 職員会議等において施設外研修参加者による伝達研修を実施

・施設内会議 ケース会議、職員会議、千代田寮運営会議
母子支援員会議、少年指導員会議

- ・施設外会議 全国、関東ブロック、県内等の諸会議に出席し情報交換に努めた。

関東ブロック母子生活支援協議会	4月
全国母子生活支援協議会	5月
静岡県母子生活支援協議会	5月・2月
ふじのくに安心地域支え合い体制作り県民会議	3月

6. 機関連携

施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、措置機関、児童相談所等の関係機関や学校、保育所などの機能や連絡方法を明確化し、その情報を職員間で共有した。

日常業務の中での随時の連絡や関係措置機関の担当者に一堂に会していただき、千代田寮関係措置機関等連絡会を年1回7月に実施した。

7. 実習学生の受入

実習学生を受け入れるにあたっては、将来の福祉人材の育成と確保につながることを目的とした。また利用者にとっても、多くの人と関わることで人間性や社会性を養う機会になると考えられる。さらに施設としても学生からの新鮮な意見、質問等に対応することは非常に有意義と考える。

児童福祉施設等においては利用者の権利擁護とプライバシーの尊重と個人情報の保護が責務であり、実習学生もその責務があることを指導し、あわせて実習学生の個人情報の保護についても施設として責任をもって対応した。

年間受入状況 県内中心に5校 31人

8. 子育て短期支援事業、一時保護業務の実施について

静岡市からの委託による子育て短期支援事業及び静岡県女性相談センターから委託された緊急一時保護事業を3世帯、6人実施。

9. 防災、防犯対策の充実について

防災計画に基づき、自主防災組織を育成し、施設の安全対策に努める。また、防犯対策についても、防犯カメラ、非常時自動通報装置の増設、防犯フィルム貼付、正門の常時締切など更に安心して暮らせる施設となるよう対応マニュアルを整備し機器の充実を図った。

10. 環境衛生

利用者の快適な住空間を保障するために定期的な全館消毒や清掃をするなど生活環境の改善を図った。

平成 30 年度 千代田保育園事業報告

子どもの生活環境や子育ての環境が大きく変化し、子育て支援に対する保育園の役割はますます深化・拡大している中で、次の保育理念、保育方針及び重点目標に基づいて充実した保育の提供に努め、年度末には、第 71 回の卒園式を挙行し、35 名の逞しく成長した子どもたちを 14 校の小学校へ送り出すことが出来た。

*在園児数

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園児数	171	174	173	174	177	176	178	179	179	178	179	179

(在園児童年齢別区分表・別表 1)

<保育理念>

子ども一人ひとりを大切にし、あそびを通して、知識や思考の土台となる経験を乳幼児期にたくさんさせ、子どもらしい生き生きとした生活が豊かに営まれるように保障していく。

<保育方針>

子どもたちをとりまく環境をより豊かにし、自ら考え、自ら行動し、健康で思いやりの心をもった子どもに育てる。

<重点目標>

- 丈夫な体
- 豊かな心

1. 保育計画にもとづいた保育の到達状況

今年度も、本来の千代田保育園の保育をさらに充実させるため、「丈夫な体」「豊かな心」を重点目標とした保育を実施した。

積極的に戸外に出て、水、土、泥、砂に触れ、乳幼児期に十分な「あそび」を体験した。五感をフルにつかい、エネルギーを高め、想像力をふくらませ、他人と協調すること、子ども自身が自ら考え、自ら行動する、子どもの頭と心と体をバランスよく育つよう、保育した。特に、丈夫な体作りの一環として、裸足保育について職員間で改めて話し合いを設け、裸足の重要性についても学びながら、まとめたものを「千代田保育園のしおり」にも掲載し、保護者に配布した。そして、毎年全員の足型をとっていくことを決め、変化を見ていくことになり、実施した。また、年齢ごとの体作りについても、意識しながら保育をしていき、何年先かを見通した今の時期にできる体作りをした。

(1) 自然との触れ合い

天気の良い日には、園庭で元気に遊んだり、積極的に近くの公園、空き地にも出かけた。年間行事の中にも徒歩遠足や山歩きなど、自然と触れ合う機会も多く取り入れた。谷津山に登り山道の楽しさや山の自然を味わうことができた。また、2,3歳以上は、鬼ごっこ、かくれんぼなどルールのあるあそびを子供たちから楽しんでいた。

(2) 創造力を膨らませあそびを発展

夏は、プールに毎日入り、水がかかっても平気になり、水の中で浮くようになったり、バタ足したり、泳げるようになった。そして、冬でも暖かい日には、蛇口をひねり、水を出し、容器の中に水を入れたり、こぼしたりして水の感触を楽しみ、大きい子たちは、砂場で山を作り、共同で穴を掘ったり、川作りをしたりと創造力を膨らませあそびを発展させていった。そして、「ピカピカだんご」作りなども引き続き行った。

(3) 絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむことができる機会

子どもたちが、家庭でTV、ビデオ、ゲーム等の影響が大きく心配されているため、絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむことができる機会を多くするとともに、園の絵本、童話等の貸し出しもした。

図書コーナーを整理し、絵本の冊数を増やし、乳児クラスでも各クラスでの貸し出しできるよう環境を整えた。

今年度も、親子で絵本を毎日のように借りていく姿が見られた。また、前半は、1ヶ月1回、年長、年中のどちらかの部屋へ‘読み聞かせ’の講師を招き、午睡前の時間を使って、手遊び、詩の朗読、絵本の読み聞かせなどを楽しませてもらった。後半は、講師の体調不良により実施は難しかったが、毎日、クラス担任が、読み聞かせをし、色々な話に触れる事が出来た。

(4) 「食育」の一環として、クッキング保育

「食育」の一環として、クッキング保育(カレーづくり、へそもち作り、ホットケーキづくり等)を取り入れた。初夏には、野菜づくりに取り組み、ミニトマト、ピーマン、きゅうり、なす等を、育てて収穫する喜びや、調理することへの関心も広がり、食に関する興味も増していった。収穫したばかりの野菜をそのまま食べたり、部屋で切ったり、炒めたりなど調理して味わった。

また、調理する人の大変さも知り、子どもたちから「ありがとう」「おいしかった」と声をかけることも増えた。

年に何回か、給食の職員が年長クラスに赴いて、食に関する絵本の読み聞かせをしたり、実際にその場で子どもたちと一緒にジャムやバターを作ってみたり、味見したりした体験は、子どもたちにとって、とても興味深いものとなった。ま

た、初めての試みとして、椎茸の栽培も行い、椎茸の成長過程を見る事が出来、子どもたちも職員も興味深いものとなった。こうしたいろいろな事を経験する中で、食についての興味・関心をもち、食べることの大切さも子供たち自身が感じてくれたようだ。今年度も、玉ねぎの皮を煮だしての染布も初めて行い、子どもたちはいつもの食とは違う楽しさも味わった。また、稲穂をバケツで栽培し、米の出来る過程を観察したり、粃殻を剥き、米粒を取り出すことも体験した。より米が身近な存在になったようだ。

2. 職員間の連携

職員間の連携では、保育士の専門的知識及び技術をもって児童の保育をするとともに、日常のコミュニケーションを密にとり、保護者支援を心がけた。園における子どもの姿の写真を掲示したり、日々の保育の意図などをクラスだよりなどで知らせ子育てのワンポイントやアドバイスなどして、保護者が温かな見守りの中で、子育てと就労の両立を図ることができるよう支援した。

危機管理、子どもの発達、保育、などについても会議を設けるなどして、共有し、連携を図った。

3. 親近感と信頼感をもたれる施設

園児の祖父母や地域のお年寄りを保育園に招待したり、老人介護施設を訪問して、手あそび、ふれ合いあそびを楽しみ交流を深めた。そして、家庭で子育てをしている保護者が子どもを連れ気軽に保育園に立ち寄れるよう、“おしゃべりサロン”を通して、園庭解放などを積極的に行い保育所が地域の中でも、親近感と信頼感をもたれる施設として機能するよう努力した。

“おしゃべりサロン”は、年 9 回実施し、ベビーマッサージ、歯科衛生士の話、きのいい羊たち、バルーンアート、絵本の話、おみせやさんごっこ、園庭解放などを実施した。

4. 保育内容

保育課程・年間指導計画・月間指導計画に基づき週案を立て、保育園の特色とすべき養護の面に特に配慮し、子どもの自発的、主体的な活動を援助する姿勢のもと、保育指針の 5 領域の教育分野に、きめ細かな内容を取りいれて保育の充実に努めた。

5. 年間行事

4 月 2 日 35 名の新入園児を迎え、入園式を実施した。

3 日 年長児は、徒歩で浅間山まで花見に行った。

12 日 対面式では、幼児クラスでの縦割りグループになり、顔合わせをした。(101 名)

28 日 保護者総会・クラス懇談会で、保育園の方針を理解してもらい、

職員や保護者間の交流をもった。

5月 10日 おしゃべりサロンでは、ベビーマッサージの資格を取得した職員による実践を行った。(参加者3組)

15日 幼児クラス(3歳以上)は、日本平動物園へ遠足に行った。(103名) 年長児は、動物教室に参加し、動物と触れ合う体験をした。

30、31日 嘱託医による健康診断を行った。(174名)

6月 6日 保育参観を実施し、各クラスの子どもの様子をみてもらった。

7日 嘱託医による歯科検診を行った。

8日 セントケア(介護老人施設)を訪問しお年寄りとの交流を楽しんだ。(年長クラス34名)

12日 年長児は、市民プールへ行き、プールあそびを存分に楽しんだ。(34名)

15日 おしゃべりサロン実施(歯科衛生士の話 参加者7組)

19日 幼児クラスは、消防署職員による花火教室に参加した。

22日 プール開きを行った。

7月 3日 おしゃべりサロン実施(園庭解放 参加者9組)

14日 千代田まつりを実施し、みこしねりをしたり、盆踊りを楽しんだ。(178名+保護者)

19日 幼児クラスは、バスで大浜プールへ行き、広いプールを満喫した。(102名)

27日 年長児は、夕方からカレー作り、きもだめし等を経験し、思い出に残る「お楽しみ会」を実施した。(34名)

31日 プール参観(たんぽぽ・ちゅうりっぷ組)を行い、今夏のプールあそびの成果を披露した

8月 1、2日 プール参観(さくら〜こすもす組)を行い、今夏のプールあそびの成果を披露した。

9月 4日 プール納めを行い、クラス毎にプールあそびの成果を披露した。

5日 おしゃべりサロンで、「きのいい羊たち」の講師を招き、地域の参加者や幼児クラスの子どもたちが運動遊びを楽しんだ。(参加者13組)

21日 年長児が十五夜のへそ餅づくりをし、お月見の話を聞き、おやつ

の時に皆で食べた。

- 10月 13日 運動会 全園児が参加し保護者の前で練習の成果を披露した。
23日 徒歩遠足 幼児クラスは、谷津山までの長い距離を歩き、秋の自然を満喫した。
- 11月 1日 防災訓練 全職員と園児が参加し、避難の仕方を確認した。
9日 施設訪問 セントケアでお年寄りとの交流を楽しんだ。
(年長クラス 35名)
14日 七五三の祝会 もちつきをし、つきたての餅をきな粉餅にしておいしく食べた。(さくら～こすもす)
22日 みかん狩り 幼児クラスはバスで丸子のみかん山へ行った。
- 12月 8日 クリスマス会 日頃の成果を披露するため、生活発表会を行い、
サンタも登場してみんなで楽しんだ。(全園児)
- 1月 16日 お別れ遠足 年長児は、御殿場の“ぐりんば”へ親子で雪あそびに出かけた。(親子 35組)
21日 凧揚げ 幼児クラスは城北公園へ行き、親子で作った凧を揚げ楽しんだ。
- 2月 1日 豆まき 鬼や福の神が現れて豆まきを行った。
7日 お店やさんごっこ 年中、年長クラスで園児がお店をだし、おしゃべりサロンの参加者や各クラスの園児たちもお店屋さんでの買い物を楽しんだ。
13日 シルエット劇場 年長児は、静岡市民文化会館で影絵を楽しんだ。
- 3月 1日 ひなまつりの会祖父母、を招待し、各クラスの出し物を披露した。(祖父母 117名)
24日 卒園式 年長児 35名を送り出した。(第 71 回)

月間行事

毎月行う行事

- ・身長体重測定
- ・誕生会・童話会
- ・避難訓練
- ・職員会議

・絵本の読み聞かせ（年長、年中で隔月）

6. 実習生の受け入れ

常葉大学（3名）、静岡県立大学短期大学部（2名）、静岡福祉医療専門学校（1名）等の実習生を受け入れてきた。

また、職場体験で中学生や高校生（8校、19名）も受け入れた。

7. 職員研修の実施

県保育所連合会、県保育士会、市保育士会、ときわ保育士会、日保協等
よる研修会には、極力多くの保育士を参加させ、資質の向上に努めた。

ときわ保育士会	実技研修：自然と科学、プール、音楽、絵本等 理事研修：年4回 講演会：講師 増田修治氏
静岡市保育士会	養護講座 実技研修：わらべうた キャリアアップ研修
静岡県保育士会	保育士研修会：リーダーセミナー
静岡県保育所連合会	保育研究大会
静岡県中部支部	保育士研修会：るくる
静岡市保育協会	実技研修：歌遊び 調理実習
全国保育士会	関東ブロック保育研究大会
日本保育協会	事故予防研修会
静岡市保健所	食中毒予防
近隣園・小	合同研修会
こども病院	食物アレルギー
こども園課	栄養士研修

8. 他機関会議等の参加

下記会議等に園長（主任）が出席し、協議及び情報収集を行った。

- (1) ときわ保育士会、静岡市保育士会、静岡県保育士会等の総会
- (2) 県保育所連合会、県中部支部等の総会
- (3) 私立園長会
- (4) ときわ保育士会役員会、理事会
- (5) 市保育協会
- (6) 城東子育て支援センター
- (7) 視察研修

9. 一時預かり事業（国庫事業）

平成 27 年度から国の制度に基づいた一時預かり事業を実施した。年間で 1 名以上の利用者があれば行える事業である。在園児以外の近隣の方々の乳幼児を預かり支援する事によって、安心して子育てができる環境整備に寄与するよう努めてきた。一時預かり事業の利用者は次の通りである。申込者の中で利用日当日、児童の体調不良等でキャンセルとなったケースも何名かあった。

一時預かり利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5

10. 保護者アンケートの実施

今年度は、第三者評価による保護者アンケートを行った。56.3%の回収率であった。保護者の園に対する理解や不満、要求などを知ることで、これからの保育園の運営等に役立てていきたい。

11. 熱中症対策

今年も暑さが厳しかったため、各クラスのエアコンをフル活用し、子どもたちの健康管理に努めた。また、幼児クラスは、水筒を持参し、乳児クラスは、経口補水液や麦茶を与え、水分補給をこまめに行った。

12. 第三者評価の実施

静岡県社会福祉協議会による第三者評価を実施した。保護者アンケート、保育園の自己評価等を行い、その結果を踏まえ、今後の千代田保育園の運営や保育の質の向上に努めていきたい。

別 表 1 園 児 童 年 齢 別
(人)

月 年齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
0 歳	9	9	9	10	12	13	14	15	15	15	15	15	151
1 歳	28	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	354
2 歳	33	33	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	389
3 歳	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408
4 歳	33	35	34	34	34	33	33	33	33	33	33	33	401
5 歳	34	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	414
合計	171	174	173	174	177	176	178	179	179	178	179	179	2117